

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-510	12-140	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Gastro-oesophageal reflux. Part 1: smoking and alcohol reduction. 胃・食道逆流症：喫煙と飲酒の低減		
執筆者		
Al Talalwah N, Woodward S		
掲載誌		
Br J Nurs. 2013 Feb 14-28;22(3):140-2, 144-6. Review.		
キーワード		
胃・食道逆流症、喫煙、アルコール		
要 旨		
目的： 胃・食道逆流症 (GORD) は胃内容物の非生理的な食道への逆流と定義され、そのことで症状が惹起され、生活の質が低下する。GORD の有病率は高く、医療費の圧迫につながる。本稿は GORD の保存的、内科的及び外科的治療法を論じた三論文の第一番目である。喫煙とアルコールが逆流症に及ぼす影響、それらの低減による GORD 症状の影響を総説する。		
方法： 以下の三つのデータベースを用いて、成人対象の英文による研究を探索した：MEDLINE、Embase 及び the Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL) である。		
結果： 逆流現象に対するアルコールの影響に関しては何年にもわたって論争されてきた。アルコールが逆流を惹起し、中等量飲酒が夜間の胃・食道逆流関連症状を増悪させると結論する研究がある一方、そのようなアルコールの影響を否定する研究もある。ニコチンによる食道下部括約筋弛緩作用のため、逆流の多くは喫煙中におこる。このため喫煙は GORD のリスクを増大させる。また、喫煙量の増大に伴って逆流のリスクも高くなる。		
結論： 看護師は、喫煙とアルコールが逆流症に及ぼす影響に関し、正しい知識を持つ必要がある。このような科学的根拠に基づいた情報提供することで、患者の自覚を促し生活習慣改善のための動機づけを行うことができ、結果としてコンプライアンスを高め、臨床的に望ましい結果につながる。アルコール低減により逆流症状が改善するという根拠はなく、禁煙が効果的であるとする根拠は限定的である。従って生活習慣改善の効果に関する更なる研究が必要である。		